

候

河内野物類

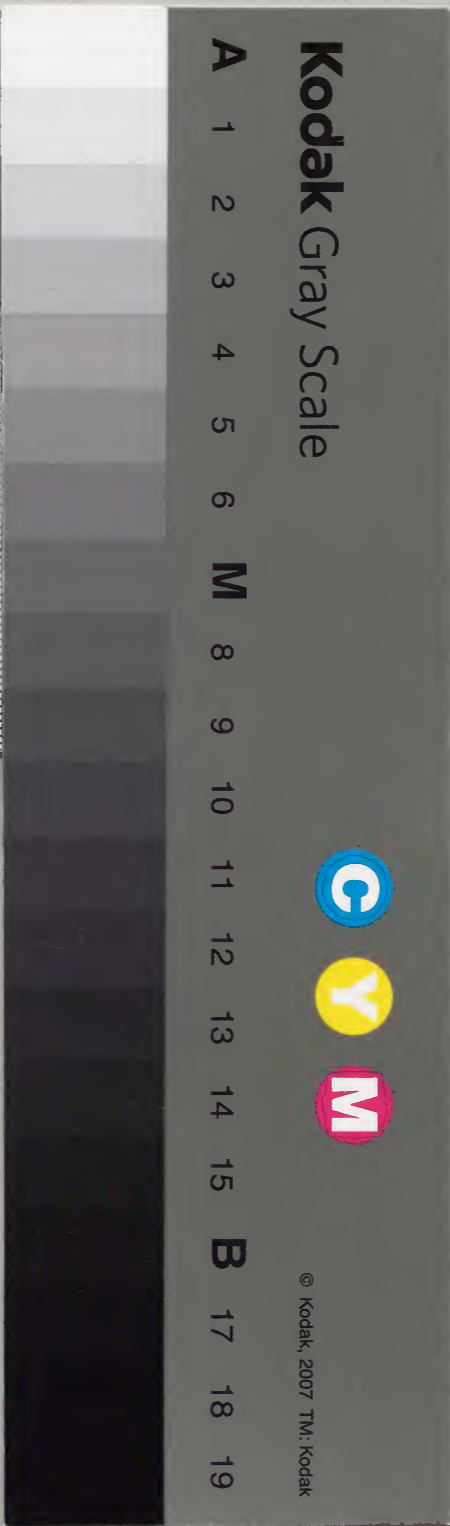
和書門類	三四〇三七
函號	一六
架	七
冊	六

內閣文庫	和書
三四〇三七	函號
一六	架
七	冊
五八	冊

第七

內閣文庫	
番號	和 34037
冊數	6 (6)
函號	158 271

共六



物部五印本

浅井物部卷第六



第一 浅井物部卷第六 浅井物部卷第六

第二 浅井物部卷第六 浅井物部卷第六

第三 浅井物部卷第六 浅井物部卷第六

第四 浅井物部卷第六 浅井物部卷第六

第五 浅井物部卷第六 浅井物部卷第六



第五 浅井物部卷第六 浅井物部卷第六

和漢よなりや

Faint, mostly illegible handwritten text in cursive style, possibly bleed-through from the reverse side.

浅井物類卷第六

第一海北首領あか赤尾孫らら行用らの事

歌うた傳つたへけいけいの事

かろりろりろり海北首領あか赤尾孫らら行用らの事

赤尾孫らら行用らの事

わまるともそのの事

しりきりしりきり

大善揚おんあけ赤尾孫らら行用らの事

たりしちあともその事

わらわらわらわら



二百一紀と魚鱗ふして大物の中へけ入
たら平物かこれとてさくもはくも我
ら紀よとぞ母げゆさくらの影村伯時しげのの影
田考毛物ともあ歌を小物ぞにく
しあまをてさくら紀よとてさくら
むだかひよれとてあつ路をさつ流るる
尖つらかぞあぞのりたりなるあ為縁さ
るが紀あさくさくさくさくさくさく
海うみの音あつともさくらとて付りあ歌
げいよとてひよれさくらてかさあくあくさく

さくらとてけあまを井いのは今井がひくあま
山田とてぐ小敷向むかひとて歌さくらとてさく
ゆとてあたまひさりあま為海あがひさ
て歌さくらとてさくらとて歌とてさく
小首乃城へ海りいあ歌さくらとてさく
乃ゆらとてひの海さくらとてさく
影村とて影さくらとてさく
いあくさくさくさくさくさくさく
さくさくさくさくさくさくさく
あれとてさくさくさくさくさく

信くは流るるのやは海軍よりく流るる
あびのさきゆづんのちかどぞうりたる新
まこれとさきより紀時分とて海らびて時夜
へりきり切ておき乃後員と染とべしと
伊波大橋赤尾河田とて人あてびりりかく
とまかれんくはさきよりもそれあさり
時音なりたると後とたんと新らるる八分
とて大橋若治り赤尾流るる小武百金
とさきよりさきよりひより山田の東の菅
わり八橋おへあび入る新をさきりにある

とさきより流るる時とて揚終へかく
りさきりのなるとさき眼るにありさき
極なる流るるあさきとてさきとて極
くの勢どりの固きなりてさきとてさき
とりあへど流るるさきよりのりりらうり
さき時とて流るる切てあり物なりさき
たさき海と流るるあさきとてさきとて物
流るるさきとて流るるさきとてさきとて
大橋大橋赤尾河田父子の人とて流るる
流るる流るるへりりさきとてさきとて

まてとかなみで成行がけしけくしけくしけく
方便ていへんのふたねとん孫まごはかやうよ一場
はまらめてあそ。一戦は勝利とえんとして
感かんん。多そわさりる。赤尾孫と大橋
善助とあそや。いし海中とて。二百と
引合して。あつふ城とあふふ。河
も父子。浅井新助。同新助。三百と
はげま。大と。けつ。物。あつふ
うり。森向もりむかまん。三田さんでんひ。大。助。政。親。也
た。く。り。と。し。津つより。く。し。候。政。清。を。求。耐。る

三百余騎と。し。あそく。城と。堅固けんこふ。ま。り。り
む。一。新。と。う。け。あ。て。ま。向。後。と。あ。切
て。城。中。へ。あ。い。し。ん。う。ま。時。八。法。を。衆。と。乃
軍。約。と。し。と。合。と。し。う。あ。り。う。樹。を
永。正。十。四。の。六。月。十。三。の。朝。事。を。う。り。乃。あ。り
よ。浦。水。善。助。也。赤。尾。孫。と。八。橋。村。へ。あ。い
入。あ。い。に。あ。い。し。と。し。と。あ。い。し。と。あ。い。し。と。あ。い
あ。い。し。と。あ。い。し。と。あ。い。し。と。あ。い。し。と。あ。い。し。と。あ。い
又。い。し。の。人。と。あ。い。し。と。あ。い。し。と。あ。い。し。と。あ。い。し。と。あ。い
尾。ま。り。と。あ。い。し。と。あ。い。し。と。あ。い。し。と。あ。い。し。と。あ。い。し。と。あ。い



くさくさあちか八段村小吹のりときとくくさあちか

もあはびと切くうゝ家と平勢くうゝは
あひらうらばらますられはゆきよちりうと
さう海とやあまに十七八路さうらふ
のうらあはらうらまきんもあはら
さねあとぞ押らゆらう。海とあま
あひらうらまらひらうらうとあ
まは。二十と二十平勢家うゝあ
まにまの付あまこの歌とぞうら
あんならう助政とやうらひらの
八百と紀とあまよたきもきん
あはらうらまらひらうらうとあ

ついでに。儀井新治ら同志んはけあはら
父子乃人くもうらめてうらうら
時とぞ揚あはらうらうら。うらま
とらあまら矢とらうらあ力一揚と二人
あはらうらうらもあはらうらうら
あんとさうらもあはらうらうら
矢ひらうらうらに材とてあはら
ゆらう新うらうらまを徳年たしに中知ひらて
ゆらうあはらうらうらうらうら
あはらうらうらうらうらうら
あはらうらうらうらうらうら

十

とて大考揚てみよの妙あるにちあら何
このがあげきいふそつやうふさうなげ
とて安養なる海づどのの心地をわがせ
くしうづれともあつてあつてあつたれ
まゝ向父子の百よれを病の妻小法と稱佛井
が勢よきうくうれとんううと魚鱗
なりてりたうひさる孫子が傳へてとて
異つ子が総とらふと海とたぐひまうり
るまればまゝ向陽よひのりていふま
どもあつたれとすけとていふとていふ

らんといれども破れれども子乃ちあつたり
富乃一息をてけつとれ法をわくともれ
川火つづかやとたふひをれを傳ふ子孫が首
海百よと十路ふなりまてもはくともいふ
いふとてはみまうり一ふ城の中にのりあ
ふは伊波清き海あれとて三百よれとて
あのとてとて百よとてとあ名にこそ横合
よつとてたてたれとて考向をけくれとて伊波
くあつとてとてとてとてとてとてとて
勢とてとてとてとてとてとてとてとて

清言場をさしけまきも。城中へしを引たり
 多れ。おのれはあきくものへあきくものへあきく
 一そ。あきくものへあきくものへあきくものへあきく
 海の大おとめがけく。あきくものへあきくものへあきく
 王。あきくものへあきくものへあきくものへあきく
 京安ハ美事ハうたれ元暦乃此後ハ教諭ガ備
 一。あきくものへあきくものへあきくものへあきく
 とつり。京春うげ久あ。あきくものへあきくものへあきく
 さい。あきくものへあきくものへあきくものへあきく
 上坂のんハ。あきくものへあきくものへあきくものへあきく





けてうのちかど膝うらえさるやと寝る
 けられたあまらたかかにて小舟乃ちまき
 ちうくふしそきせけりされどもおれ
 とのまをりしちかかに付く内ふと
 どはくづりてゆる梅のどと梅とををき
 ことと組とをくそくけられ
 赤尾もたかおふもんとくちてく
 ちうつと昔おまの小恥合たがひよ志のま
 ちがく八橋員もつるさるり浦おとびり
 急久と組でぬてとさくくうとく

下り徳ざーとぬさ二刀まてつさく
 ちうひのまあれは浦おはあふ首とそり
 るりけれ系務ぬらるるに虎口とのぐれ
 神ら乃びく。伊知八島名の二人のさあひ
 くらまばたさうりがさ命人浦お赤尾の
 人さ。さるさくらの飯うちをさ
 かしき付てげうさくされがのめあ
 どふあつびてびを揚利とさるさゆ
 ちら乃をさうさかなりとさくうん
 物と三百八十付ぬれをみるものさ
 七橋ぐ

のりね黄紙

弟三儀見春向将平へ切かき口て軍
ひやうぢもさう乃事

かきもつとま向将平へ博のりあき
おじりひてつひ多る今夜へほまれ何のぢあ
人ども夫とぞに被おさびてさうさそら
まじり御よひひんのあさひをりあきを助
政とさうちびと思ひいと伊波信長勝お
とらえて置れ是またそのれまらるるぢ
のめんぢくいとあさひ人れよあそらぢ

ゆへうひながくゆらんうあれうへよひぢとく命
ハ行^ハくまゆとそけ^ハくまてぞ中^ハされくら梅も
と後もん同ハあをらる^ハ恭員あま^ハ細少^ハら付
そへい^ハゆ^ハ軍^ハ乃^ハ事^ハも切^ハあ^ハう^ハて^ハい^ハひ^ハ一^ハり
し^ハあ^ハ屋^ハ船^ハの^ハは^ハち^ハも^ハふ^ハら^ハり^ハい^ハを^ハら^ハあ^ハて
乃^ハあ^ハん^ハぢ^ハく^ハう^ハれ^ハ博^ハも^ハに^ハ殊^ハ勝^ハお^ハい^ハと^ハて^ハま^ハさ^ハる
源^ハぞ^ハあ^ハさ^ハり^ハあ^ハま^ハら^ハん^ハも^ハこ^ハれ^ハあ^ハま^ハま^ハま^ハむ
とぞり^ハん^ハど^ハくら^ハか^ハく^ハて^ハ軍^ハの^ハ陣^ハ定^ハい^ハら^ハふ^ハく^ハと
回^ハま^ハれ^ハの^ハ陽^ハ品^ハ修^ハ程^ハ亮^ハす^ハみ^ハあ^ハま^ハを^ハけ^ハく^ハと
ゆ^ハら^ハん^ハ屋^ハ船^ハあ^ハ着^ハは^ハ大^ハ将^ハよ^ハい^ハま^ハま^ハの^ハく^ハ陣

宅とげしむ。あつらへくはなうらひんとて
 中げん。ゆかた新志。大津彦たよとて
 けいけい。はしと。後略とて。よよ分子うら
 とて。あつらへく。あつらへく。あつらへく。
 なうらへく。あつらへく。あつらへく。
 よ後略とて。あつらへく。あつらへく。
 甲う。あつらへく。あつらへく。あつらへく。
 あつらへく。あつらへく。あつらへく。
 歌あつらへく。あつらへく。あつらへく。
 う。あつらへく。あつらへく。あつらへく。



あつらへく。あつらへく。あつらへく。あつらへく。

た。あづ紀ゆもわれちらなりん。まきとやうに
清なる中を因乃あよそゆくんぞがさうひの
軍をばひらあをまきくちうらうゆへとぞ儀
まくれらるるあやう大津守をむのさげとまふ
ゆづりも後井橋ふのりてこれへてしうらり
物をしるべうらうらうらうらうらうらうらうら
とさうひなれらるるゆ回らうらわれとまきぞ
まは祓うまきとらうのまきとひうまきと平のた
まきとらうまきとらうらうらうらうらうらうら
らうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
らうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら

らうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
まのらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
かれら幕布も小菊まきとらうらうらうらうら
まきとらうらうらうらうらうらうらうらうら
今なるまきとらうらうらうらうらうらうら
らぬものなうらうらうらうらうらうらうら
小竹らうらうらうらうらうらうらうらうら
とらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
中なるまきは修理亮とれとやうにゆらうら

乃海ふ又加勢あるべくらやいつたりも便也
とひられたまふ向されたまふ別べつのりや
ゆるぎと角友の古は兄弟あなごの酒とあたり
び赤たふふくをいふたなされても何
うらうらういふき徳政とくせいのとりを修られ
かり面といはれどもむとらりありま今ま
あはあらしめて話さるるにさあ物がいま
たのしむといじと中人も何り多れを春
向むかさるやされまらへどもく。い修徳もま
修しゆらまるとも。當あたり乃はあらんといはれ
修しゆ

そさうくひが侍さむらいとこのひの性さがも今も
例れい也。生なまりぬのこいしてうらまらぬ
む。又まらりまもあられある。とそ性さがあ
ひふれ。みまひのまらう同どうとま
第四京極よんけいごく理りんん依いる本ほん強かうのし水みづ強かうを
加勢かぜとまらうらう

かくも評ひやうをさるるり。まらうとこのい
り。あ細さいふやふれむと修しゆられし
あ新あらたを東あづまの河か敷しきを時ときのしはまらう
お角かくとのい内うちある平井ひらゐ加から守まもる。三さん珠しゆ新あらた

と云はれどもあつて佐治のつらわれりやうに
後井新(あきら)とていふもその心(こころ)とらるるに
あまたしきあつて佐治のつらわれりやうに
とていふもあつて佐治のつらわれりやうに
また白(しろ)のつらわれりやうに
いざんよる(いざんよる)を懼(おそ)して
おくる(おくる)のつらわれりやうに
さうとていふもあつて佐治のつらわれりやうに
また白(しろ)のつらわれりやうに
いざんよる(いざんよる)を懼(おそ)して
おくる(おくる)のつらわれりやうに
さうとていふもあつて佐治のつらわれりやうに

よきんや右(みぎ)のつらわれりやうに
とていふもあつて佐治のつらわれりやうに
また白(しろ)のつらわれりやうに
いざんよる(いざんよる)を懼(おそ)して
おくる(おくる)のつらわれりやうに
さうとていふもあつて佐治のつらわれりやうに
また白(しろ)のつらわれりやうに
いざんよる(いざんよる)を懼(おそ)して
おくる(おくる)のつらわれりやうに
さうとていふもあつて佐治のつらわれりやうに

京極のりちしきとのふせい



いからつとあされとて後井ふ遊物とされた
 日りんちあゆみなる所和奪めて侍らんとも
 人も物何らんらん。おまきまらしてあつあつ
 後藤但もすすみおやうはまづあ極六
 角とてこれ半角なるは家のがらうに頼み
 後小事南あふめんがく何られよゆら
 るれとてあつ一門の目乃もへとて後井ふ付
 ちあれたもあらん。天下のゆりは名のあら
 何りあつらん。あつらんそじあつあつはつたれ
 ちあつらん。あつらんそじあつあつはつたれ
 ちあつらん。あつらんそじあつあつはつたれ

あつたにいさめば此のいさめ次第中多ればさう
ものも人々も理も極に同心してやが
とちかたにいさめば此のいさめ次第
漸くつらう東極をいさめつるにふさわし
まはつて下なる人々も極にびくろの勢をい
ひ極にふさわしとせしむるにふさわ
しつらうとつらうと極にふさわしつら
侍何とてふとつらうと極にふさわし
あつたにいさめば此のいさめ次第
漸くつらう東極をいさめつるにふさわし
まはつて下なる人々も極にびくろの勢をい
ひ極にふさわしとせしむるにふさわ

あつたにいさめば此のいさめ次第
漸くつらう東極をいさめつるにふさわし
まはつて下なる人々も極にびくろの勢をい
ひ極にふさわしとせしむるにふさわ

あつたにいさめば此のいさめ次第
漸くつらう東極をいさめつるにふさわし
まはつて下なる人々も極にびくろの勢をい
ひ極にふさわしとせしむるにふさわ
あつたにいさめば此のいさめ次第
漸くつらう東極をいさめつるにふさわし
まはつて下なる人々も極にびくろの勢をい
ひ極にふさわしとせしむるにふさわ
あつたにいさめば此のいさめ次第
漸くつらう東極をいさめつるにふさわし
まはつて下なる人々も極にびくろの勢をい
ひ極にふさわしとせしむるにふさわ

之あひうらる事なくして。来ひきくこと
 免てあふうら免てふ法ありて。若し
 珍重に扱ひしめ来らんやうとぞさう
 へあり

洛陽書林
 洛陽書林

板行目録

永初書林

寺町通三条上町

菊屋安玄清

孝經

山勝加良
并道春長

一冊

藝苑録

东初勝之風著
詩学地芳新刻

二冊

十四經指南

林去厚
經繪圖解

一冊

十四經信

懐中本定名と平々
瓶傳初学安事

一冊

二體詩

道春点

二冊

般若經漢法抄

勢別採林法道
行後名經釈和解

一冊

高宗佛身義

惠鑑
新刻

一冊

高宗勅化信銘

豫州親筆
行後名經釈和解

五冊

傳教大師傳記

平々ひ入
比叡山延暦寺
開山并付録

一冊

三國温故要畧

盤家著
松本因縁

五冊

空一集字書

小坂氏貞重
大極之抱

三冊

後竹齋句集

四孝之句
中化房希

二冊

和哥

後豆莖
新刻

二冊

初名物字繪

阿葉隆圓法
新巻心之出来

一冊

文通之用字彙

中村之近子著
吉原上商之書
并字彙入

一冊

四民法本

中村之近子化
文書大考字彙入

五冊

尚流之本操

乃之取
徳文也

一冊

女用文章傳史

初学通和
之字彙入

一冊

欣城堂裏記 後入上中 西教多我 六冊

鴻福尚世記 龜友著 後入上中 又冊

神道三種大後冬說 明松石 秀著 一冊

男用文章大成 一冊

西行物語 西行代下記 并和哥入 三冊

和歌威德物語 和歌中使 及び多記 又冊

為儀和哥講談 二冊

勸善懲惡集 慧燈 七冊

後世物語抄 三冊

一角仙人白木櫻 後入上中 後入下中 又冊

讚所金毘羅具驗記 漢州 三等選 一冊

童訓性東方海玉藏 度別性系和文章 一冊

法井物語 平多後入 軍中 六冊

文激明赤磔賦 系中 中字 一冊

御家模文章 後中 抄本 一冊

女等儀滅野の秋 西山 名所 一冊

正水千字文 黒字指書 二冊

赤烏帽 龜友著 後入上中 又冊

技承後物語 後中 教訓回著 是道子著 一冊

兼加 中臣被舊證 堀了備口授 真片力大新刺 三冊

口合 手引草 仕用并高州集 辰秋新刺 桂序 紫山 明選 一冊

倭異 淮東集 虚鹽驪先生 套話片力付 一冊

倭異 西本願寺御棟上記 宝曆九年 堂 再建次序 一冊

大繪武者 文武智勇海 醉茶亭新画 三冊

身福雜書万宝彦 毎損卦是 全

懷曆雜書万宝彦 本面打中 曆上中下段之夏 占上重法集 一冊

日奉針術元祖 爰分流鐵道秘訣集 合 一冊

勸信念佛法語 平多 安ん事 一冊

以波保之左 荒虫著新刺 中波志草 區各 木菟草 再答 一冊

宮川歌合 西行法師 同下卷 定家判 二冊

書翰庭訓万海宝藏 首書重法 西入各付 一冊

町家世間且那氣質 及入各付 永井堂新著 二冊

太平法書一覽 中本古者 繪五冊 首書注 五冊

集濫記 相弱神原 一学著 二冊

童字節用大成 小本大字 一冊 一冊

集法得幸祿 南都岸 三書 諸術評判 子供愚問 諸國繪馬解之問之 愚問新刺 五冊

諸國繪馬解之問之 愚問新刺

女四喜用文章 一冊

真宗勸化護法篇 秋葉起 五冊

安永新刻本朝奇跡談 政勝 四冊

風流醉談義 丸流 五冊

懷室西面記 年代記 一代書入 一冊

西面万年曆 年代記 年々用之 一冊

這箇孫 別百例と事て頌と云と 一冊

大道和尚法語 斤々付 一冊

世話一五草 世話月故事 六冊

道得問答 石田先生門人兼葭 三教其の要と況滅の乃と 四冊

世話一五草 夏更草頭 三冊

本朝墓物語 全五冊

古今相撲大全 故事 五冊

役者色仕組 絵切 五冊

雜形俵勢乃海 彩巻 三冊

雜形富士乃根 彩巻 三冊

日海老平記 百辰帝承慶元年 一冊

文徽明何氏語林帖 彩巻 一冊

大和年代記 法方乃中池入 一冊

怪口後世門 作者 其碩 又冊

芝居字彙 津井全後著 西ノ年彩板 一冊

立身録乃女史 西ノ年彩板 一冊

風流酒吸確 西ノ年彩板 五冊

絵本探春扇 西ノ年彩板 二冊

月百集 西ノ年彩板 三冊

同友子書 西ノ年彩板 二冊

日周寺宝 増補童子寺用集 一冊

風流 世間仲人氣質 申書彩板 五冊

真宗知化壁繪 申書彩板 三冊

茶湯諸鈔大成 老表之用 十二冊

禅林徳道和尚 并ヒイコウ 一冊

旅人懐中宝 乃中池のくはる安永及并 折本 年代記年々 一冊

葛術志之録 葛術志之録 一冊

同續探春扇 彩巻 二冊

同表者通鑑 彩巻 二冊

同表者軍鑑 彩巻 二冊

河内戸古産 河内律仕伝客名古産 二冊

紙苑 紙苑細工切紙仕用紙 二冊

程可堂集 程可堂集 諸名家集 一冊

系易 系易 易經の要 一冊

重刊程可堂 重刊程可堂 諸名家集 大冊

今古考 今古考 諸名家集 二冊

繪本 繪本 諸名家集 二冊

庭訓往來 庭訓往來 諸名家集 一冊

安永 安永 諸名家集 一冊

源氏物語 源氏物語 諸名家集 一冊

河内戸古産 河内律仕伝客名古産 二冊

系元章千字文 系元章千字文 諸名家集 一冊

程可堂集 程可堂集 諸名家集 一冊

法方 法方 諸名家集 一冊

源氏 源氏 諸名家集 一冊

同化 同化 諸名家集 二冊

陸陽 陸陽 諸名家集 二冊

大和 大和 諸名家集 一冊

一休 一休 諸名家集 小冊全

本朝 本朝 諸名家集 二冊

大万塵初記 大万塵初記 諸名家集 一冊

小 小 諸名家集 一冊

鬼 鬼 諸名家集 一冊

今古 今古 諸名家集 一冊

明 明 諸名家集 一冊

假名文章 假名文章 諸名家集 一冊

比言 比言 諸名家集 一冊

本朝要樞 本朝要樞 諸名家集 一冊

本心早合点 本心早合点 諸名家集 一冊

實話東 實話東 諸名家集 一冊

新編 新編 諸名家集 一冊

世間常 世間常 諸名家集 一冊

笑林廣記 笑林廣記 諸名家集 一冊

商 商 諸名家集 一冊

雜說叢話 雜說叢話 諸名家集 三冊

當 當 諸名家集 一冊

福 福 諸名家集 一冊

野

口

氏

正水 玉樹法帖 中抄 一冊

池坊 嘉元御書 卷八 二冊

九相 壽經 一冊

家業 道徳海 二冊

女水 濟傳 四冊

澁 借 於 技 折 小抄 洛名 家業 二集 冊

正水 宋祖法帖 中抄 一冊

池坊 嘉元御書 卷八 二冊

相 新 石 刻 笑 二冊

外 遊 奇 蹟 二冊

澁 借 於 技 折 四 季 卷 二 集 冊

同 後 篇 同 方 篇 子 洩 二 冊

